



庭乃持田園有限会社  
持田智彦さん

今回、充電式チェーンソー「DCS3620TL2」を使っていただいた。今年で創業90年を迎える道国家の三代目。樹木医の資格ももち、日本樹木医会神奈川県支部の支部長を務める。



## 自在に操れるサイドハンドル



本体の重心近くを握れて、自由自在に操作できる斜め形状のサイドハンドル。「いろいろな握り方ができるから、どんな方向に伸びた枝でも窮屈になりません」と持田さん。

「取り回しとともに重要なのが軽さです」と持田さん。その点、このチェーンソーなら負担がないので、つねに腰に吊り下げて木に登れる。

## 切れ味も最高!



刃幅1.1mmの薄刃ソーチェーンを採用。切断時の抵抗が少なく、消費電力を抑えながら軽快な切断が可能だ。

軽さと動力性能を兼ね備えた一台

# 軽量ボディで素早く切断 選ぶなら京セラの充電式チェーンソー

枝の伐採や薪づくりなどで重宝する充電式チェーンソー。だがDIY向け製品ではパワー不足や駆動時間の短さでモノ足りない……。そこで京セラのプロ向け充電式チェーンソーはどうか? 軽量で操作性もバツグン、36Vだからパワー不足に泣かされることもない。

写真/飯崎大(W.P.) 文/モノマガジン編集部



エンジン式に匹敵するチェーンスピード27m/sと同クラスでもトップクラスの軽さによってスピーディに作業できる。

### 解除



### 設定



ブレーキレバーの役割を兼ねたハンドガード。とっさのときに手の甲で押し出せば回転が止まるため、より安全に作業を行うことができる。



大口径のオイル注入口。「口が細かったり、入り組んでいるとこぼすこともありますが、これなら注ぎやすい。栓もしっかり止められます」と持田さん。



オイル吐出量はマイナスドライバーで3段階に調整可能。「潤滑オイルの硬さは季節によって変わるので、適量を保つために調整できるのはありがたい」



Kyocera  
充電式チェーンソー  
DCS3620TL2

価格9万8450円  
36Vバッテリー搭載の充電式チェーンソーのなかでもトップクラスの軽さと最速のチェーンスピードを実現。サイドハンドルの採用で取り回しのよさも特筆もの。高さ213×長さ511×幅200mm



## 特集 ちょっと面倒な作業もこれひとつ! 男の日用工具

「軽いついていうのは一般のユーザーの方にとっても大きなポイントです。普通は軽いとパワーがなく、ちょっとモノ足りないんです。だから大きめの枝の場合、押し付けて切ろうとする。これが危険。パワーに余裕があるということ、安全面にもつながるんです。でも他方で安全性を高くすると、作動前にさまざまな操作が必要で慣れるまでが大変です。その点、このチェーンソーの安全装置には過不足がありません。自然に操作できるのが嬉しいですね」

軽量で十分なパワーをもち、安全性を担保しながら操作もシンプル。京セラのプロ向けチェーンソーは、一般ユーザーにもやさしいモデルだった。

「切る場所や方向によってハンドルの持ち方もさまざまです。この斜め形状のサイドハンドルは、いろいろな持ち方ができるので、枝が込み入ったところでも不自然な体勢になることはありません」

プロの樹上作業に特化したこのチェーンソーが、プロの高評価を得るのはある意味当然のことに見える。翻って、われわれ一般ユーザーが享受できるメリットはあるのだろうか。これに対して、「軽くてパワーがあることが最大のメリット」と持田さんは言う。

「とにかく軽い。いつでも下げて(木に)登りたくなる製品ですね。重いチェーンソーだと腰が痛くなるので、手ノコだけを持っていくこともあるんですが、これなら出番がなくても腰に吊り下げていこうという気持ちになれます」

軽さとともに重要なのが、動きの制限される樹上での取り回し。その点も持田さんは評価する。

「切る場所や方向によってハンドルの持ち方もさまざまです。この斜め形状のサイドハンドルは、いろいろな持ち方ができるので、枝が込み入ったところでも不自然な体勢になることはありません」

プロの樹上作業に特化したこのチェーンソーが、プロの高評価を得るのはある意味当然のことに見える。翻って、われわれ一般ユーザーが享受できるメリットはあるのだろうか。これに対して、「軽くてパワーがあることが最大のメリット」と持田さんは言う。

足場を探しながら慎重に幹に登り、ポイントに到着するとチェーンソーを軽快に取り上げて枝打ちを開始した。樹上で自在にチェーンソーを操るこの人物は持田智彦さん。今回、京セラ「DCS3620TL2」の実力を検証していたたく造園家である。

普段はさまざまなチェーンソーを使い分けて作業するという持田さんにとって、この新製品はどう感じられたのか? 早速聞いてみた。「パワーは充分です」と前置きしながら、まず真先に評価してくれたのがその重さだ。

「とにかく軽い。いつでも下げて(木に)登りたくなる製品ですね。重いチェーンソーだと腰が痛くなるので、手ノコだけを持っていくこともあるんですが、これなら出番がなくても腰に吊り下げていこうという気持ちになれます」

軽さとともに重要なのが、動きの制限される樹上での取り回し。その点も持田さんは評価する。

「切る場所や方向によってハンドルの持ち方もさまざまです。この斜め形状のサイドハンドルは、いろいろな持ち方ができるので、枝が込み入ったところでも不自然な体勢になることはありません」

プロの樹上作業に特化したこのチェーンソーが、プロの高評価を得るのはある意味当然のことに見える。翻って、われわれ一般ユーザーが享受できるメリットはあるのだろうか。これに対して、「軽くてパワーがあることが最大のメリット」と持田さんは言う。



## NEW



庭木や生垣の形を整えるのに便利なのが充電式剪定ばさみ。「とくに梅の木などは硬いので、手ばさみで切っていると手が痛くなってしまいます。そういったときにはやはり電動ですね」と持田さん。なかでも京セラの充電式剪定ばさみ「DSH1120L2」なら刃の開閉スピードが0.3秒だから、素早く軽快な切断が可能だ。しかもブレードの開閉角度も設定が可能。「刃の動きがトリガーと連動して微調整できるから切り口がきれいに仕上がります。プロ向けの機能ですが、切り口の美しさにこだわりたいなら一般の方にお勧めですね」 価格9万4050円

## スピーディでパワフル剪定